

2024年度（令和6年度）

事業報告書

社会福祉法人 星谷会

社会福祉法人星谷会 2024年度事業報告

= 目 次 =

社会福祉法人星谷会 事業報告	2
星谷学園・星谷デイさくら 事業報告	1 1
計画相談支援事業所ほしや 事業報告	1 6
あまいろ 事業報告	1 7
地域活動支援センター結夢 事業報告	1 9
結夢+ 事業報告	2 1
S E L P ビナ 事業報告	2 3
海老名市障害者第一デイサービスセンター 事業報告	2 7
海老名市障害者第二デイサービスセンター 事業報告	3 3
海老名市障害者支援センターあきば 事業報告	3 6
グループホーム事業報告 (みずき・しおん・とんぼ・かぶとむし・はなきりん・てんとうむし・ほたる)	4 0
ホームいこい事業報告	4 3
生活支援センターステップ事業報告	4 5

2024年度 社会福祉法人星谷会事業報告

1. 2024年度社会福祉法人星谷会事業の重点目標実施状況

- (1) 利用者主体の支援の強化（権利擁護「身体拘束、虐待防止」・意思決定支援の取り組み）
 - ・身体拘束防止の取り組み：毎月実施する管理者会議内にいて同委員会を開催。各事業所からの事案について検討した。
 - ・虐待防止の取り組み：市基幹相談支援センター開催の虐待防止研修及び2025年2月に法人全体で研修会を実施。虐待防止に努めた。
 - ・権利擁護の取り組み：人権委員会で人権チェックリストを全職員に配布し利用者の権利擁護に努めた。
- (2) 感染症予防対策。
 - ・マスクの着用・手指の消毒・感染症予防の研修等を実施した。行事に関しては宿泊を除く外出やイベント等を再開した。
- (3) 第三期中期計画「do star plan」の実施。
 - ・門沢橋に新たな土地を購入。今後の共同生活援助事業の準備を実施した。
 - ・管理者を中心に次年度以降の計画の見直しに向けて検討を行った。
 - ・海老名市進路情報共有会議に参加。次年度以降の卒業生のニーズを把握した。
- (4) 令和6年度障害福祉サービス報酬改定への対応
 - ・報酬改定の研修などを通じ、法改正の理解を深めた。収支の状況については四半期ごとの実績等を総務部を中心に確認し経営状況の把握を実施した。
- (5) 法人事業開始30周年記念事業の実施。
 - ・諸般の事情により具体的な記念事業は未実施。2025年度に実施予定。
- (6) その他
 - ・石川県能登半島大地震の被災地である輪島市と能登町へ県知的障害施設団体連合会からの依頼で5月～8月上旬に掛けて星谷会から8人の職員を派遣。輪島市の仮設住宅への訪問及び日本海倶楽部で被災地支援を実施した。

2. 2024年度の主な事業内容

【事業所の運営】

- (1) 星谷学園、星谷デイさくら、SELPビナ、あまいろの運営
- (2) グループホームみずき及びはなきりん・ホームいこいの運営（10住居）
- (3) 計画相談支援事業所ほしやの運営
- (4) 生活支援センターステップの移動支援・レスパイトサービスの運営

【指定管理制度による事業】

- (1) 海老名市障害者第一・第二デイサービスセンターの運営
- (2) 海老名市障害者支援センターあきばの運営

【委託による事業】

- (1) 地域活動支援センター事業及び相談支援事業の実施（結夢の運営）

- (2) 結夢+の運営
- (3) 海老名市自立支援協議会の運営（事務局）
- (4) 海老名市基幹相談支援センターと業務提携

【法人運営・財務】

- (1) 学園積み立て 第一、第二、あきば人件費の積立
- (2) 不動産の基本財産算入と定款変更
- (3) 星谷学園・SELP ビナ給食委託業者選定プロポーザル

【施設・設備整備など】

- ・星谷学園増築
- ・門沢橋に土地の購入

【その他の事業】

- (1) 地域貢献事業：お米一合運動を実施。神奈川フードバンク及び海老名市と連携をとる。
- (2) 12月キラ星コレクション」海老名市役所ロビーにて開催。
- (2) 地域生活サポート事業
 - ①地域防災拠点事業 防災備品の整備等
 - ②地域交流等支援事業 かつば堂（農福連携野菜の無人販売棚、地域収穫体験）
- (3) 製品販売やショップを通じた交流事業
 - ①イベント開催：えびなこの街で暮らそう
 - ②実習生・ボランティア受け入れ
- (4) 地域障がい者団体等との交流及び連携事業
 - ・福祉講演会の実施（2025年1月）

3. 職員配置

新規採用者は、年度途中採用者を含め4名。常勤職員は前年度より1名減。
非常勤は前年度より1名減。

事業所	本部	星谷学園	デイさくら	あまいろ	SELP ビナ	相談ほしや	結夢	結夢+
常 勤	3	28	4	4	6	(兼4)	5	3
非常勤	0	17	4	6	4		2	1
計	3	45	8	10	10		7	4

事業所	レインボー	かつば堂	あきば	みずき	はなきりん	いこい	センターステップ	計
常 勤	9	5	13	4	3	1	(1) 兼務	88
非常勤	6	8	18	20	18	26	4 (1) 兼務	134
計	15	13	31	24	21	27	4	222

4. 2024年度神奈川県法定研修受講状況

- (1) 神奈川県サービス管理責任者等研修

研修名	受講者	備考
県サービス管理責任者等更新研修	白井・小坂（SELP ビナ）、赤塚（あまいろ）、林田（かつば堂）	

(2) 神奈川県相談支援従事者研修

研修名	受講者	備考
県相談支援従事者初任者研修	金城栄司、川村多恵（星谷学園）	KCN

(3) 神奈川県サビ児管研修及び相談支援従事者等研修ファシリテーター

ファシリテーター
三澤貴広（学園） 谷岡裕子（結夢） 河原雄一（学園）

5. 法人委員会の活動状況

(1) 研修委員会

階層別研修

研修名	対象者	テーマ・内 容	講師	実施時期	会場
初任者研修	勤務4年未満 参加者数 23名	「障害者の支援 基礎」 講義と演習により障害者支援の基礎についての理解をはかる。	白石孝之氏 （社会福祉法人 彩明会理事長）	9月27日 （金） 18:00～ 20:15	海老名 市文化 会館 351
中堅職員研修	4年以上 8年未満参 加者数 22名	「アンガーマネジメント」 自分の感情と上手に向き合うための技術「アンガーマネジメント」について学びを深め、利用者や職員、家族とのコミュニケーション時に生かしていく。	田辺 有理子 氏（横浜市立 大学医学部看 護学科講師）	1月23日 （木） 18:00～ 20:00	海老名 市文化 会館 351
上級職員研修	勤務8年 以上 参加者数 24名	「チームマネジメント」 講義と演習によりチームマネジメントについての理解を図り、実際の職場での人材育成に生かしていく。	田島利子氏 （在宅かいごと 専門けあの 相談室・サポ ーターRe－ think 代表）	12月16 日（月） 18:00～ 20:00	海老名 市文化 会館 351
課長職員研修	管理職員 主任職員 参加者 21名	「労務管理について」 法人の管理職、上級職員（8年）についての職務、職位、役割等を講義と演習により理解を図る。	曾根政典 氏 （星谷会事務 長）	11月16 日（火） 18:00～ 20:30	海老名 市文化 会館 351
主任&管理者研修	新主任者 新管理者 参加者	「主任&管理者研修」 1回目 法人の主任職、管理職についての職務、職位、役割等を講義と演習により理解を図る。	河原雄一氏 （星谷学園） 研修委員	3月11日 （水） 17:30～ 19:30	わかば 会館

	3名	「主任&管理者研修」 2回目 法人の主任職、管理職についての職務、職位、役割等を講義と演習により理解を図る。	河原雄一氏 (星谷学園) 研修委員	延期 次年度開催 予定	わかば 会館
--	----	--	-------------------------	-------------------	-----------

内容別研修（課題別研修）

研修名	対象者	テーマ・内 容	講 師	実施時期	会場
課題別研修	全職員 参加 47名	「意思決定支援」 意思決定支援のについての講義と星谷学園の意思決定支援の取り組みの発表により理解を図る。	吉田展章 氏 (特定非営利法人 藤沢相談相談支援ネットワークえぼめい)	1月31日 (水) 18:00～ 20:00	海老名 市文化 会館 351
	全職員 参加者 56名	「BCPの理解」 講義等によりBCPの理解を図り、又BCPに必要な取り組みの確認と実施をしていく。	三澤貴広氏 (第1、あきば管理者)	10月31日(木) 18:00～ 20:00	ビナレ ッジ ホール
	全職員 参加者 60名	「普通救命講習Ⅰ」 法人全職員を対象にAEDの使い方、心肺蘇生法等について講義と演習により理解を図り、実際の現場での非常に備えていく。 実施日等については下記の別紙参照	海老名市消防 本部隊員	7月～10月 全4回 13:00～ 16:00 又は 17:00～ 20:00	海老名 市消防 署本部
全体研修	全職員 参加者 78名	法人実践報告会 各事業所の実践状況を法人内で報告する機会を持つことにより、それぞれの実践を振り返り、今後の利用者支援の向上につなげると共に、各事業所の活動状況、支援を知り、視野を広げ、各事業所の支援の充実を図る。 発表事業所各20分×3事業所の発表と各10分の質疑応答。 研修後に永年勤続表彰を実施	発表事業所 星谷デイさくら あまいろ 結夢・結夢+	2月24日 (金) 18:00～ 20:00	ビナレ ッジ ホール
全体研修	全職員 参加者 53名	障害者虐待防止・身体拘束廃止研修 ～日々の支援を点検する～ (虐待防止及び身体拘束適正化の基礎理解)	長谷川大輔氏 (社会福祉法人びぐれっと 経営戦略室 長・事務局 長)	2月28日 18:00～ 20:00	海老名 市文化 会館 351・ 352

内容別研修（普通救命講習Ⅰ）の実施日について 受講者計 60名

日 付	時 間	受講者
2024 年 7/24（水）	17：00～20：00	10 名
2024 年 9/10（火）	13：00～16：00	17 名
2024 年 10/17（木）	17：00～20：00	16 名
2024 年 10/23（水）	17：00～19：30	17 名

その他の研修

- ・安全運転講習（ワゴン車）：高齢者及び初任者を対象に運転の適性・技能を確認する。
(7/16 実施 6 名参加)
- ・新採用職員研修：2023 年 4 月採用職員の採用前研修

(2) 人権委員会

今年度は、法人全職員を対象として行っている「法人人権擁護チェック表」に加え、項目を減らし、支援の振り返りがしやすくなるように「簡易版人権擁護チェック表」を作成し、実施した。簡易版人権擁護チェック表では、直接支援者用と相談支援用の 2 種類を作成し、それぞれの支援に合わせたチェック項目を入れ込んだ。

実施後のアンケートからは、「簡易版の方が分かりやすく、支援の振り返りもしやすかった」との意見が多く聞かれていた。

2 月 28 日（金）に「虐待防止・身体拘束廃止」研修として、社会福祉法人ぴぐれつと 長谷川大輔氏を講師にお招きし、法人全体研修を開催した。開催後のアンケートでは、「制度の変遷や障がい者の権利擁護獲得の歴史などを知ることが出来た」「演習を通して、グレーゾーンの支援とは何かという事を考え、支援の振り返りが出来た」等の意見が多く聞かれていた。また、研修については、録画しているため、見受講の職員については、録画視聴による受講を促している。

身体拘束適正化委員会については、昨年度において、身体拘束同意書をいただいている利用者の方に対し、①身体拘束が 3 要件を満たしているか②身体拘束に当たるか③適正に運用が出来ているか④身体拘束廃に向けた取り組みはどのようになっているか等について、同意書をいただいているケース毎に確認及び検証を行っている。また、年度内で新たに身体拘束が必要となるようなケースは無かった。

虐待防止委員会については、虐待及びグレーゾーンの支援について、事業所毎の会議にて、話し合っていたき、話し合った内容を管理者会で報告している。2025 年 3 月末日時点では、明確に虐待と考えられる事案は上がってきていなかった。

(3) 採用チーム委員会

今年度も厳しい状況が続きました。新卒学生との説明会は、対面方式とWEB方式で開催しました。また、説明会に参加してくれた学生との接点を継続するために、『LINE』を活用し、フットワークの良さを重視しました。一次面接を通過した学生には、別々の事業所で 2 日間の現場での実習も体験して頂き、互いのミスマッチを防ぐと共に、現場職員との接点を大切に進めました。もちろん、中途採用にも力を入れ、対面での合同就職会や各種イベントへ積極的に参加しましたが、思うような結果は残せ

ず、職員を採用することの難しさを痛感しました。

新卒内定者の入職までの関わりを強化するため、各事業所の紹介ビデオの鑑賞及び先輩職員との座談会等をメインとした「ウエルカムイベント」を開催しました。また、法人内事業所の特色を活かした記念品をチームメンバーが心を込めてラッピングし、イベント当日に手渡しました。その記念品を通して内定者との会話を弾ませることが出来ました。

委員一同力を合わせて求人媒体の内容を充実させ、説明会参加学生へ手厚く対応しましたが、新卒2名と中途2名と厳しい常勤採用となりました。

(4) 定着支援チーム

法人の職員定着率を高めるための取り組みとして法人で実現できていること・取り組みが必要なことを整理し「目標設定面談制度」「横のつながり・交流」について、具体的な企画を立案して目標設定達成システムの検討を行った。又新入職者に対して計4回の新人定着研修を開催した。中堅職員（1年以上8年未満）を対象にした事業所の枠を越えた職員間の交流を図り、共に支え合っていく関係構築を目指した職員交流会「みんなでつくろう☆ほしやネット」を昨年に引き 11/27（水）、1/27（水）2回開催した。

2024 年新人定着研修

実施日	内容	ねらい	会場
5/22 日（水）	自己紹介&座談会 新入職メンバー、定着チームメンバーの自己紹介、悩みや困りごとを聞きアドバイスする。	新入職メンバー、チームメンバーとの交流を図る。 振り返り、分かち合い	あきば
6/21 日（金）	スポーツとトーク モルック、卓球でリフレッシュ最後にその後の近況報告を二人にしてもらう。	リフレッシュ スポーツ（卓球・モルック）を通して交流を深める。	あきば
9/25 日（水）	懇談&会食会 飲食しながら交流を図る。	飲食店での飲食・懇談を通して交流を深める。	海老名レンブラントホテル
2/18 日（火）	1年の振り返りとエールの交換 歓談&飲食 志賀さん自己紹介 動画放映（上司からのエール） 本人達の言葉、記念写真撮影	ねぎらい チームメンバーと共に1年間を振り返る。同期同士での親睦を深める。	あきば

(5) リスク管理委員会

月ごとに事業所の事故報告やひやりはっと報告について、委員会として検討した。事故件数が前年度比大幅に増加したが、2023 年件数が前年比 168 減であったため、2023 年度以前と発生件数に大きな変化はない。利用者により転倒や他害の複数発生が見られる。

事故報告件数 : 329 件 (前年度比+134 件)

ヒヤリハット件数 : 182 件 (前年度比+37 件)

()内は前年度数

内容	事故件数	ヒヤリ件数	内容	事故件数	ヒヤリ件数
転倒・怪我	90 (38)	47 (41)	所在不明	9 (9)	11 (12)
服薬	36 (25)	27 (11)	金銭	4 (2)	4 (4)
器物破損	33 (21)	10 (6)	誤食・異食	4 (9)	6 (10)
車両	23 (7)	4 (1)	紛失	15 (6)	14 (15)
他傷	71 (50)	11 (13)	衛生・環境	1 (1)	4 (2)
確認・連絡	10 (11)	20 (12)	誤嚥	2 (1)	3 (1)
不適切対応	2 (0)	1 (1)	その他	24 (11)	17 (16)
個人情報	5 (4)	3 (0)	計	329 (195)	182 (145)

※労災事故 3(7)件 いづれも骨折 ※利用者骨折事故 1 件

(6) 防災委員会

10 月に法人合同防災訓練を実施、法人本部への情報集約。コロナ感染拡大を考慮し規模縮小し広域避難場所への避難はせず。

引き続き、不審者対応訓練の整備を図っていく

(7) 広報委員会

法人広報誌「カシオペア 31 号、32 号」発行。HP の更新管理。

(8) 海老名市要望書

①2024 年 9 月に法人から海老名市長あてに要望書を提出。12 月に要望事項について継続協議をする回答を得た。

1. 物価高騰に対する補助金について (新規要望)
2. 海老名市における福祉人材を確保・定着するための方策について (新規要望)
3. 海老名市障がい福祉に係る単独補助金の維持について (継続要望)
4. 移動支援及び日中一時支援事業単独型の単価の見直しについて (継続要望)
5. わかば会館の将来構想に伴う地域活動支援センター結夢の移転について (新規要望)
6. 海老名市障がい者基幹相談支援センターの強化について (継続要望)
7. 海老名市における地域生活支援拠点等整備事業の推進について
8. その他 (継続要望)

法人からの要望事項の内、物価高騰の補助金の助成を受けた。また、令和 7 年度から移動支援の単価のアップにつながった。

6. 理事会・評議員会等開催状況

理事会

回	実施日	議 案
第 157 回 理事会	5 月 28 日	議案 第 1 号議案 2023 年度事業報告について 第 2 号議案 2023 年度決算報告及び監事監査報告について 第 3 号議案 福祉充実残額について 第 4 号議案 評議員会の開催について 報告事項 (1) 2024 年度処遇改善の一元化について (2) 組合との交渉について その他 (1) 次回理事会について
第 158 回 理事会	7 月 16 日	議題 第 1 号議案 規程の改正について 報告事項 (1) 組合との団体交渉の経過について その他 次回理事会について
第 159 回 理事会	10 月 29 日	議題 第 1 号議案 2024 年度第一次補正予算について 第 2 号議案 第三期法人中期計画に基づく共同生活援助事業用地の購入と基本財産への組み入れについて 第 3 号議案 評議員会の開催について 報告事項 (1) 2024 年度理事長及び執行理事の業務報告について (2) デイさくら増築工事について (3) 星谷学園指導監査（書面）報告 (4) 組合団体交渉について (5) アートバンク著作権使用について その他 次回理事会について
第 160 回 理事会	3 月 13 日	議題 第 1 号議案 2024 年度第二次補正予算について 第 2 号議案 2025 年度事業計画について 第 3 号議案 2025 年度当初予算について 第 4 号議案 規定の改正について 第 5 号議案 管理職員の異動・選任について 第 6 号議案 役員賠償責任保険の契約について 第 7 号議案 評議員会の開催について 報告事項 (1) 定款変更の予定について (2) 理事会・評議員会の年間予定について その他 (1) 次回理事会について

評議員会

回	実施日	議 案
第 84 回 評議員会	6 月 14 日	報告事項 報告 1 新評議員について 報告 2 2023 年度事業報告について 報告 3 2024 年度処遇改善の一元化について 報告 4 組合の交渉について 報告 5 その他 議案 第 1 号議案 2023 年度決算報告及び監事監査報告について 第 2 号議案 福祉充実残額について その他 (1) 次回評議員会について
第 85 回 評議員会	11 月 14 日	報告事項 報告 1 第三期法人中期計画に基づく共同生活援助事業用地の購入と基本財産への組み入れについて 議案 第 1 号議案 2024 年度第一次補正予算について その他 (1) 次回評議員会について
第 86 回 評議員会	3 月 21 日	報告事項 報告 1 管理職員の異動・選任について 報告 2 役員賠償責任保険の契約について 報告 3 定款変更の予定について 報告 3 理事会・評議員会の年間予定について 議案 第 1 号議案 2024 年度第二次補正予算について 第 2 号議案 2025 年度事業計画について 第 3 号議案 2025 年度当初予算について 第 4 号議案 規程の変更について その他 (1) 次回評議員会について

運営協議会

回	実施日	議 案
第 7 回 運営協議会	11 月 29 日	2. 議事 (1) 2023 年度業報告及び決算報告 (2) 2024 年度事業の状況 (3) 地域連携推進会議について (4) その他 意見交換等

2024 年度 星谷学園・星谷デイさくら事業報告

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 利用者の権利擁護等の取り組み

- ・2023 年度に実施した神奈川県の意味決定支援推進事業を活用しアドバイザーによる 3 ケース（入所利用者）の意味決定支援の実施を行った内容を法人の意味決定支援研修にて実践報告を行い他事業所支援員へ周知した。
- ・虐待防止に向けた取り組みに関しては、法人の虐待研修への参加やあおぞらプランの定期確認、全体会議等での定期的な振り返り、人権チェックリスの実施を通して支援のあり方を検証した。
- ・身体拘束防止に向けた取り組みについては、身体拘束の在り方について法人の身体拘束適正化委員会にて星谷学園利用者の身体拘束等についての検証を行った。

(2) 高齢化に合わせた支援の提供

- ・高齢化に合わせたプログラムや活動場所の見直し
- ・定期的な個別支援計画のモニタリング時に支援員、管理栄養士参加による食事評価を実施し状態に合わせた食事を提供し事故防止を図った。
- ・利用者の安全を確保すると共に支援員の負担軽減を図る。
- ・施設内（入所棟）の浴室のバリアフリー化の検討を行った。

(3) 開かれた施設の実現

- ・地域行事（厚木看護学校のバザー、えびなこの街でくらそう）参加を通して地域交流を図った。星谷まつりについては保護者の参加と外部からのイベント出演者を招いての開催をした。地域の方々の参加は見合わせている。

2. 施設入所支援の実績

(1) 入所利用者の状況（2024 年度末現在）

入所 入退所状況

	男	女	入退所前後の状況
前年度末利用契約者数	20 人	20 人	
2024 年度新規利用契約者数	0 人	0 人	
2024 年度退所利用者数	1 人	0 人	
2024 年度末契約利用者数	19 人	20 人	

入所 利用状況

年間延利用者数	14246 人	1 日の平均利用者数	39 人	年間利用率	97.5%
---------	---------	------------	------	-------	-------

入所 年齢構成

平均年齢 58 歳（最高 83 歳）

19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
0	0	1	8	16	10	4

入所 障害等級別状況

A1	A2	B1	B2	身障手帳
22	12	4	0	10

入所 障害支援区分

1	2	3	4	5	6	平均
0	0	0	0	13	26	5.6

入所 診断名（延人数）

自閉症・自閉傾向	ダウン症	知的障がい	精神障がい	身体障がい
8	4	39	5	11

(2) 短期入所（宿泊）利用状況

（ ）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延宿泊日数	利用率
77 人	19 人（+10 人）	765 日（+117 日）	52.4%（8.2% ↑）

(3) 日中一時利用状況

（ ）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延日数	利用率
34 人	12 人（+7 人）	166 日（+16 日）	18%（+6% ↑）

3. 生活介護の実績

(1) 利用者の状況（星谷学園・星谷デイさくら）

入退所状況（入所・通所）

	星谷学園		星谷デイさくら		備考
	男	女	男	女	
前年度末利用契約者数	20 人	20 人	17 人	8 人	
2024 年度新規利用契約者数	0 人	0 人	0 人	1 人	
2024 年度退所利用者数	1 人	0 人	1 人	0 人	・星谷デイさくら女性利用 1 名新規利用 ・入所男性利用者、体調不良により入院 ・通所男性利用者お自宅で体調不良により逝去
2024 年度末契約利用者数	19 人	20 人	16 人	9 人	

通所利用者 年齢構成

平均年齢 43 歳

	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
星谷デイさくら	2	3	4	11	5	0	0

通所利用者 障害等級別状況（重複含む）

判定	A1	A2	B1	B2	身障手帳
星谷デイさくら	12	11	2	0	5

通所 障害支援区分

区分	1	2	3	4	5	6	平均
星谷デイさくら	0	0	0	1	8	15	5.6

(2) 日中活動利用状況（入所・通所）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
学園提供日	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
学園	利用者	40	40	40	40	40	40	40	39	39	39	39	
	延数	869	904	866	908	905	866	880	843	882	879	767	10,430
さくら提供日	21	21	20	23	16	19	23	21	20	20	18	20	242
さくら	利用者	26	26	26	26	26	26	25	25	25	25	25	
	延数	427	462	439	499	341	398	464	398	395	385	350	4,969

(3) 日中活動内容

2024 年度末現在

単位	グループ名	入所利用者	通所利用者	主な作業内容
星谷学園 生活介護	レインボー	男 13 名 女 4 名	男 0 名 女 0 名	アルミはがし、タオルたたみ、缶つぶし、エコキャップ、散歩、自立課題
	マンボウ	男 2 名 女 12 名	男 0 名 女 0 名	アルミはがし、タオルたたみ、ししゅう、散歩、運動、自立課題
	ゆくる	男 5 名 女 4 名	男 0 名 女 0 名	アルミはがし、タオルたたみ、ししゅう、散歩、運動、自立課題
星谷デイさくら	さくら	男 0 名 女 0 名	男 7 名 女 5 名	アルミはがし、タオルたたみ、匂い袋、創作活動、散歩、自立課題
	あさがお	男 0 名 女 0 名	男 9 名 女 4 名	アルミはがし、タオルたたみ、刺しゅう、運動、散歩、DVD ケースクリーニング
他事業所生活介護利用者		女 1 名 (再掲)		かっぱ堂

(4) 行 事

星谷まつり	新型コロナウイルス感染症予防策として、外部参加者を除き、利用者家族を招いて又外部のイベント出演者による歌の披露、模擬店による食事提供をし、入所・通所合同開催で実施。
クリスマスイベント	事業所内にて一同に集まり、クリスマスプレゼントを利用者へ渡したり、クリスマスソングを皆さんで歌った。
土曜プログラム	通所利用者を対象に 3 回/年

(5) 作業収益

収支額

収入		支出	
作業工賃・自主製品販売等①	186,552 円	支給額合計①	185,460 円
前年度繰越金②	856 円	両替手数料②	1,100 円
利息③	20 円	次期繰越③	868 円
収入総額①+②+③	187,428 円	支出総額①+②+③	187,428 円
1 人当たりの分配金（満額支給者）		2,950 円（前年度比-60 円）	

(6) 通所方法

施設送迎	家族・外部サービス	自力（徒歩）	計
19 人	6 人	0 人	25 人

4. 研 修（外部）

実施日	研修内容	参加者
12/21	神奈川県福祉職員実践報告会	白石雄希
8/23、8/26	神奈川県相談支援従事者初任者研修 講義	金城栄司
10/16、10/17、11/13、12/12、12/13	神奈川県相談支援従事者初任者研修 演習	
9/3、9/4	神奈川県相談支援従事者初任者研修 講義	川村多恵
10/23、10/24、11/18、12/25、12/26	神奈川県相談支援従事者初任者研修 演習	

10/28	令和6年度障害福祉施設協会 新任職員研修会	西本彩花 藤生 悠斗
1/29～30	令和6年度日中活動支援部会全国大会 関東地区埼玉大会	白石雄希

5. 給 食

給食は業務委託により提供しており、「郷土料理食」などの特別食を増やした食事提供に努めた。また新型コロナウイルスなどの感染症予防対策として密を避けた食事提供となり、配膳車や衛生用品などの導入や入れ替えを行い、以前より衛生面への配慮がされた給食提供を行っている。

利用者の食事形態、トロミ剤や補助食品も見直し、「食べやすさ」を心掛けている。栄養ケア計画を作成し入所者の栄養管理を行い、栄養状態を定期的に記録・評価し必要に応じて計画の見直しを行っている。

6. 健康管理

日々の心身の健康状態の把握、服薬状況の確認、医師やその他の専門家との相談、健康・給食委員会による情報提供などにより適正を期した。またリウマチ治療については、施設内での看護師による皮下注射を継続して行っている。看護師の業務負担が増しているので1名の増員を予定している。

定期検診等の実施回数

内科検診	歯科検診	健康診断	体重測定	予防接種	往診歯科
10回	1回	1回	12回	2回	23回

医務室活動状況（利用者診療状況）

	内科	精神科	外科	整形外科	歯科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器	その他	
利用者通院延回数	265	374	0	10	331	14	6	252	3	7	1259 (↑)

入院の状況

利用者	入院期間	入院日数	入院理由
男性入所者1名	10/18～1/13（逝去）	89日	発熱、食欲不振、脱水症状
女性入所者1名	3/3～現在入院継続	28日	食欲不振、経口摂取による食事困難

※入院日数は入退院日を除く

7. 衛生管理

衛生管理については、清掃パート職員を中心に、園舎内の清潔に努めた。また、新型コロナウイルス対策として次亜塩素水や界面活性剤を使用し日常的に生活環境のふき取り消毒を行った。

日々の洗濯物はボランティアの活用を一部開始した。美容・理容については、施設内で美容師による理髪を低料金で実施した他、利用者の希望により地域的美容院を利用した。

8. 防災対策

今年度は、従来の避難訓練、通報訓練以外にBCPの防災・感染症の訓練をそれぞれ3回

実施した。

防災訓練（防災BCP）＆感染症訓練（感染症BCP）

実施日	項目	内容
4月24日	救急蘇生法・AED研修 (感染症BCP訓練1)	救急蘇生法の説明、実勢訓練
5月10日	通報訓練	地震と火災想定（平日日中）
5月22日	総合防災訓練 (防災BCP訓練1)	施設内消防設備の説明確認、消火訓練、用具の設置点検
5月 日	防災備品の確認	防災倉庫内の防災備品の確認
6月15日	避難訓練	休日夜間地震想定避難訓練
7月12日	通報訓練	事業所内内線を使用した模擬通報訓練
8月23日	避難訓練	風水害を想定した避難訓練
9月1日	避難所運営訓練 BCP (海老名市主催)	避難所の運営方法や共助の重要性について体験
10月1日	法人合同総合防災訓練 (防災BCP訓練2)	平日日中地震、火災想定、広域避難所への避難、担当GHへの安全確認、各事業所への連絡等
10月23日	感染症対策訓練 (感染症BCP訓練2)	嘔吐物処理訓練
11月22日	総合防災訓練 (防災BCP訓練3)	施設内防災設備の説明確認、消火訓練、用具の設置兼点検
12月2日	避難訓練・通報訓練	平日日中地震、火災想定
1月8日	防犯訓練 (不審者対応)	さつまたの使い方等動画視聴と実技訓練を行う。 海老名警察署生活安全防犯少年課より2名派遣
2月26日	感染症発生時の初動訓練 (感染症BCP訓練3)	BCPに沿った感染症発生時の初動の確認・訓練

9. オンブズパーソン相談状況

6月より新たに1名のオンブズパーソンが星谷学園担当となっている。2名のオンブズパーソンが来園し利用者からの相談を受けた。施設側への要望は0件、傾聴が主となっている。

オンブズパーソン活動実績

訪問日	オンブズパーソン	相談者	要望書件数
11日	延べ14人	延91人(+10)	0件(±0)

相談内容：人間関係38件 職員25件 食事35件 仕事・作業34件 設備4件 その他91件

10. 危機管理等

設置されているAEDと同じデモ機を使って緊急蘇生法の研修を行った。また、誤嚥時の異物除去研修や嘔吐物処理についても研修を実施している。

ひやりはっと・事故報告について、部署毎、運営会議、全体会議にて、定期的に検討し周知した。

11. 苦情・要望について

12月、2月に同通所利用者ご家族より2件の苦情あり、12月は利用者の臀部にべたべたしたものが付着していた件、2月は利用者の右太ももの内側のあざがあった件について状況の確認等を依頼するものであった。

2024年度 計画相談支援事業所ほしや事業報告

1. 重点目標への取り組み

(1) モニタリングの充実

計画の作成対象者が星谷学園入所者ということでサービス等の変更は少ないが、モニタリング時には星谷学園に訪問し、状況を確認したうえで計画を作成した。

(2) 相談支援員の育成

兼任相談員体制を維持し、相談支援に携わることで、福祉サービスへの理解や支援や考え方など、相談支援員としての知識や資質の向上に繋げていった。

法人内の相談支援員希望者を集約し、相談支援従事者初任者研修の受講を推進し、新たに2名の相談支援従事者を増やした。

2. 契約者数および計画作成数

契約者数

	契約者
2024年度末	14

計画作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
サービス等利用 計画作成数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モニタリング 作成数	1	4	1	2	0	5	0	0	0	0	1	0	14

2024 年度 あまいろ事業報告

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 支援の質の維持

・支援員の退職、異動、育休が重なり、新しい支援員に対して丁寧に付いて伝える人員が不足し、支援の質の維持が難しかった。ケース会議において、ケースの理解や見立てについて学ぶ機会を作ったが、年度途中で常勤の退職があり、より日々人員不足に追われた。自閉症支援の理解を十分に勧めることはできなかった。

(2) 災害対策

・非常食の備蓄日数を4日から5日に増やした。7日間を目指していくが、保管場所が難しくなっている。その他災害時備品はBCPに基づき不足品を順次揃えていくようにしたが、寒さ暑さ対策と熱源(ガスなど)が十分な備えとなっていない。感染症については、換気や体調不良者発生時の初動について学んだが、2月に新型コロナウイルス感染が発生してしまった。全職員のN95マスク着用判断が早ければ少し感染者数が減らせた可能性がある。

2. 利用状況

入退所状況

今年度は入退所者ともになかった。次年度について利用希望者が1名(他市)あったが、在籍利用者との相性が課題となり利用にはつなげられなかった。

	男	女	入退所前後の状況
前年度末利用契約者数	9人	5人	
2024年度新規利用契約者数	0人	0人	
2024年度退所利用者数	0人	0人	
2023年度末契約利用者数	9人	5人	

月別利用状況

前年度、1月に退所者・10月家庭事情による通所日数変更者・2月のコロナ感染拡大・通年不調による欠席者などの要因から大きく延べ利用者数は減少した。(前年比 276減)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	22	22	21	23	17	20	22	22	21	19	18	20	246
契約者数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
延べ利用数	231	233	228	251	181	218	224	220	236	210	199	157	2551

送迎利用状況

事業所送迎	家族送迎	他サービス利用
7名	6名	5名

それぞれ併用あり

年齢 3月末

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	計
男性	0名	5名	4名	9名
女性	0名	3名	2名	5名

障害等級別状況

A1	A2	B1
9	4	1

障害支援区分

区分 4	区分 5	区分 6	計
1 名	1 名	12 名	14 名

重度障害支援加算対象者 14 名

障害

自閉症	その他	計
13 名	1 名	14 名

3. 活動内容

作業収入

項目	金額
タオル	153,167 円
ちらし	13,200 円
アラミド	528 円
アルミ缶	11,555 円
除草作業	54,260 円
収入計	232,710 円

工賃支払い 2 回(4 月・10 月) 1 日当たり約 89 円 全日通所者 21,990 円(年間)

4. 給食

利用者の楽しみとなるようできるだけ個々の偏食と栄養価に配慮した献立作成を行い提供した。摂取量の把握や BMI の管理を行った。

5. 健康管理

看護師による体重測定と血圧測定を毎月実施した。新型コロナウイルスワクチン接種については公的補助がなくなったため事業所での接種は行わなかった。嘱託医によるインフルエンザ予防接種(11 月)と健康観察を実施した。2 月に新型コロナウイルスの流行があり利用者 4 名、職員 3 名が感染した。

6. 防災

避難訓練を 3 回実施した。

避難訓練実施日	内容
9 月 6 日	避難訓練(火災想定 通報・消火訓練)
10 月 1 日	法人合同避難訓練(地震想定)
3 月 14 日	避難訓練(風水害想定)

7. 苦情・クレーム

なかった。

8. 研修（外部）

日程	研修名	研修主催	参加者
7/11・12	サビ管更新研修	神奈川県・KCN	赤塚
11/28	県央東地区新人研修「リフレーミング」	県央東地区施設長会	木谷
1/23	県央東地区中級研修「ハラスメント」	県央東地区施設長会	赤塚
2/8・9	日本自閉症協会全国大会	日本自閉症協会	赤塚
2/9	〃	〃	安部

9. 今後の課題

（１）利用者の意思確認

障害の特性を考慮した意思確認について、検討し実践につなげていく。

（２）安定した支援環境

職員の人員不足と回転の速さが続き、日々人的余裕がない状態が続いている。本来の目的である自閉症支援の専門性について取り組めるよう人的環境を整えたい。また利用者の出勤率も低く収入の安定がない。支援の質を高め新規利用者を迎えられようにしていく。

2024年度 地域活動支援センター結夢事業報告

重点課題への取り組み

（１）フリースペース活動プログラムの検討

2024年度は新規登録者21名が加わり、旧メンバーとの活動場所としてメンバーの意見・要望を聞きながら、活動プログラム・フリースペースの充実を図っていった。新しく他事業所との交流を行ったり、新プログラムの企画実施に努めた。一日の平均利用者数も約10名延べ人数は2000名を超えた。活気ある毎日で笑顔が多いフリースペースであった。

（２）各関係機関との連携、ネットワークの強化

委託相談支援事業所として、随時協力要請に応じて対応を行った。こと緊急性の高い相談については率先して対応にあたり、相談員や一事業所が単独で対応することは困難であることから、行政や地域の福祉関連事業所にとどまらず、医療機関、司法機関等幅広く連携し関わっていかれるよう、協力体制の構築に努めてきた。

（３）自立支援協議会の充実による地域の体制づくり

自立支援協議会、各種連絡会、県内外の研修会等に参加し、幅広い関係機関との連携体制構築に努めてきた。

併せて、ケース課題や地域情報の中から抽出される地域課題については、適時相談員間・相談会議時等に収集した情報を共有・取りまとめを行い、隔月に巡回訪問がある海老名

市障がい者基幹相談支援センターへ情報提供を行った。

自立支援協議会については、令和 8 年度より海老名市障がい者基幹相談支援センターに移管することから、今年度については引継ぎの最終年度として、年間を通じて事務等引継ぎを行うこととなった。

2. 実 績

(1) 地域活動支援センター事業

①登録者数（2025 年 3 月 31 日現在）（前年度比較）

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	その他	計
107 (+1)	50 (+8)	9 (±0)	3 (±0)	10 (+3)	6 (+1)	0	185 (+13)

*障がい名が明らかでない人を「その他」で分類

②ゆうむスペース利用状況

実施日数：252 日 延べ利用者数：2751 人 1 日平均：10.92 人

(前年度比較 255 日 2416 人 9.47 人)

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	難病	その他	計
1959	588	24	23	153	4	0	0	2751

③活動プログラム実施状況 実施回数：121 回 延べ利用者数：709 人（1 回平均：5.85 人）

(前年度比較 125 回 765 人 6.12 人)

プログラム	実施回数	参加延べ人数	プログラム	実施回数	参加延べ人数
寺子屋	10	12	ゆうむシアター	11	38
パソコンチャレンジ	11	13	調理	24	221
満福亭（生活教室）	23	134	かかし作り	5	17
ミーティング	12	74	歌声ゆうむ	2	25
みんなでモーニング	4	21	クリスマス会	1	15
みんなでランチ	4	29	お汁粉を食べよう	1	9
みんなで晩御飯	2	14	初詣	1	5
きら星コレクション	1	7	ハロウィン	1	10
職場体験（菓子作り）	2	15	地域拠点事業	2	20
ティータイム	1	9	遠足	1	9
ボーリング大会	1	10	法人合同防災訓練	1	2

④地域交流支援事業実施状況

障がい者等が、地域社会の一員として、積極的に地域との交流を行い障がい理解の促進を図る事業

9/17 11/21, 22 1/21, 22	「こころのバリアフリー」出展 市内中学生職業体験（有馬中） 市内中学生職業体験（柏ヶ谷中）	延べ 6 名参加 延べ 6 名参加
-------------------------------	---	----------------------

⑤地域拠点事業実施状況

地域の拠点とし広く門戸を開き、障害の有無に関わらず（総合支援法の対象外でも支援が必要と認められる者）受け入れを行なう事業

3/21	「カラオケ」	11 名参加
------	--------	--------

⑥制度のはざま対応事業実施状況

発達障がい者、高次脳機能障がい者等の相談支援や交流促進を図る事業

発達障がい	10 人	相談：延べ 65 件	地活：延べ 153 回
高次脳機能障がい	3 人	相談：延べ 119 件	地活：延べ 23 回

(2) 相談支援事業の実績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ）	マネジメント	ケア会議
件数	457 人（+45）	2106（-308）	2905（±0）	47（-1）

②月別状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
相談件数	186	161	146	185	163	165	229	160	193	161	159	202	2110
マネジメント等	207	220	246	222	219	254	269	178	237	268	233	357	2910
ケア会議	9	6	7	3	2	1	3	2	2	2	5	5	47
計	402	387	399	410	384	420	501	340	432	431	397	564	5067

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係 人間関係	家計・経済	不安の 解消	住環境	教育
件数	1447	14	169	52	48	137	117	0
就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満		その他	合計			
32	9	11		70	2106			

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	884	754	236	53	179	2106

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
2796	1213	119	65	337	345	188	4	5067

⑥サービス利用計画作成の状況（2025 年 3 月 31 日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
122	21	4	5	8	19	5	184（-19）

2024 年度 相談支援事業所結夢+事業報告

重点課題への取り組み

(1) 新体制へのスムーズな移行

新たな管理体制への移行における連携強化については、月 1 回の会議や電子メールを活用した情報共有によりスムーズに進んだ。ただし、専任の調整役が不在の中、都度話し合いながら役割分担を行う必要があった。

(2) 当事者の意思決定や権利擁護の遵守と相談支援技術の研鑽

専門性向上の取り組みとして、月 2 回程度の結夢+ミーティングでピアスーパービジョンを実施し、意思決定支援や権利擁護支援に関する学びを深めた。また、相談支援事業所連絡会におけるグループスーパービジョン（GSV）にも全員で積極的に参加したほか、各職員が外部研修へも参加した。加えて、災害に見舞われた能登へ 2 名の被災地相談派遣を行い、その経験については法人広報誌カシオペアで報告した。この経験から得られ

た知見を個別避難計画作成に活かすこととした。

(3) 計画相談支援の充実とネットワークづくり

計画相談支援については、緊急性の高い事例として、2 名の方が緊急短期入所につながる対応を行った。また、日本に帰化された方 3 名の支援では、文化や生活習慣の違いからくる難しさがあったが、海老名市や他相談支援事業所との密な情報共有や助言、さらには関係団体、多職種との連携を図ることで、計画相談の充実に繋がった。

2. 実 績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ）	マネジメント	ケア会議
件 数	275（+46）	2850（-121）	3620（-985）	95（-1）

②月別状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
相談件数	245	273	211	265	234	214	236	217	225	239	238	253	2850
マネジメント等	356	359	298	358	250	248	271	283	286	287	266	358	3620
ケア会議	6	7	8	9	6	16	5	5	6	9	10	8	95
計	607	639	517	632	490	478	512	505	517	535	514	619	6565

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係 人間関係	家計・経済	不安の 解消	住環境	教育
件 数	2437	8	108	53	15	145	25	1
就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満		その他	合計			
17	9	14		18	2850			

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	1595	655	400	65	335	2850

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
3866	1114	123	254	336	868	4	0	6565

⑥サービス利用計画作成の状況（2025 年 3 月 31 日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
164	21	4	11	3	23	0	226（+36）

2024年度SELPビナ事業報告

1. 重点目標に対する課題と評価

【就労継続支援B型】

(1) 個々の利用者に合わせた作業種の提供や、働きやすい作業環境の調整を行う。

作業種の選択について、基本的には納期に合わせて支援員が利用者をお願いしているが、障がい特性や、日々の心身の状態を見極めながら、その時々に合わせて希望する作業を行っていただいた。

(2) 工賃向上のため、作業種の単価見直しや、作業種の入替えを検討する。

作業単価の見直しについては「株式会社エコー」に打診しており、現在、交渉中となっている。その他企業については、「株式会社旭段ボール」より、新製品導入時に交渉を行っているが、希望通りに上げることは難しい状況であった。

(2024年度平均工賃 24,901 円 前年度比+1290 円)

(3) 地元企業との関係強化と障がい者理解を図る。

地元企業である「株式会社旭段ボール」(海老名市)「有限会社辰巳合成」(海老名市)「株式会社ライフクリーニング」(綾瀬市)の3社について、社員同士のコミュニケーションや、利用者を介しての交流など、良好な関係を構築している。仕事についても優先的に発注して頂けることもあり、作業運営上有益に働いている。

(4) 利用者の増員に関する取り組み。

新規利用者獲得のため、近隣養護学校からの体験実習を受けたり、養護学校進路担当者に卒業後の進路希望者等について、確認している。また、相談支援専門員にも見学や体験実習の受け入れについて、説明しているが、見学や体験実習に繋がった方はいなかった。

今年度は、2月末日で男性利用者が退所。3月末日で女性利用者が他事業所に移られるなど、年度末の在籍数は38名となっている。(次年度4月38名)

【就労定着支援】

(1) 就労先企業との連携強化

今年度、3名の利用者が定着終了となっており、年度末の利用数は4名となっている。

月に1回、企業に訪問し(企業によっては、訪問を希望されないところがあり、ビナで面談を行ったケースもある。)就労者の就業状況や生活状況を確認した。訪問する中で、企業側から就労者へ課題を提起されることが何度かあり、その都度、就労者と企業の間に入り、解決に向けた話し合いを行った。

(2) 継続した就労への支援

企業を訪問した際には、就労者と面談する時間を設けていただき、就労者の困りごとや、企業からの要望に対する対応策などについて、話し合った。今年度定着支援をした就労者で、退職した方はいない。

○今後の就労定着支援について

就労定着支援については、2025年5月末日で、指定有効期間満了となるため、4月に更新申請を行っている。指定の要件については、3年間の間に3名以上の就労者が必須となるため、次回の指定更新が難しくなる可能性がある。

【各サービス共通】

○意思決定支援の取り組み

個別支援計画作成時には、利用者個々の面談や、ご家族の意向確認を行うなどして、利用者及びご家族の意向を踏まえ、計画を作成した。また、活動の中では、利用者の心身の状態に合わせながら作業を提供した。

月 1 回の自治会活動をサポートし、利用者の意見を作業や余暇活動に反映させた。

2. 利用状況

月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
就労継続 支援 B 型	在籍者数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	39	月平均34.4
	延べ人数	735	768	730	808	585	652	774	708	677	709	615	663	8,424
就労定着	在籍者数	4	4	4	4	5	5	5	5	4	4	4	4	月平均4.4
	月実績数	4	4	4	4	5	5	5	5	4	4	4	4	52

※年間活動日=245 日 平均利用率=B 型 86.0% (実人数による利用率・就労定着含まず)

入退所の状況

【就労継続 B 型】

年度当初在籍者数	男	女	備考
	21 人	19 人	
2024 年度入所利用者数	1 人	2 人	2024 年 4 月に男性 1 名が入所、女性 2 名入所
2024 年度退所利用者	1 人	1 人	2024 年 2 月末日で男性 1 名退所 2024 年 3 月末日で女性 1 名が他事業所利用のため退所
今年度末在籍者数	20 人	18 人	

平均年齢・年齢構成（2024 年度末）

	性別	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60 以上	平均年齢
就労 B 型	男性	0	6	7	2	4	1	36.4
	女性	2	5	5	3	3	0	

療育手帳級別状況（2024 年度末）

就労継続 B 型			
A1	A2	B1	B2
4	14	15	5

障害支援区分（2024 年度末）

区分	1	2	3	4	5	6	未認定
就労継続 B	0	1	7	12	6	1	11

3. 作業内容

(1) 作業種及び工賃

受注作業については、クリーニング作業（ライフクリーニング）の収入が大きく、続い

てガス警報器説明書加工（エコー）、段ボール作業（旭段ボール）、水道メーター（神奈川県企業庁）と続いている。作業量については、大きく減少したものはなく、安定的に作業を行っていた。

作業全体の収入では、昨年度に比べ上がっており、平均工賃 24,901 円 前年度比+1290 円となっている。

(2) 就労会計

項目	金額
企業庁水道局*水道メーター	1,072,500
施設外受託事業*清掃	561,000
エコー	2,301,557
ライフクリーニング	4,789,992
大洋テクノ	577,637
ロザフィ	530,788
旭段ボール	1,211,056
辰巳合成	378,548
その他	1,300,064
収入合計	12,723,142

項目	金額
給与支給(賞与含む)	10,597,553
仕入れ材料費	101,720
光熱費	780,049
消耗品費(備品購入含)	115,035
賃借料	319,440
外注加工費	261,000
通信運搬費	185,528
燃料費	320,658
その他経費	52,159
支出合計	12,723,142

(3) 通所援助

送迎バス(マイクロバス)と送迎車(ワゴン車)を綾瀬市及び海老名市内に2台を走行させ利用者へ送迎サービスを実施した。

通所状況

電車・バス	送迎車	徒歩	家族送迎	その他(自転車等)
16	23	5	3	0

※e キャット(企業バス発着場・SELP ビナの送迎バス)まで公共交通機関を利用する方や、片道のみ SELP ビナの送迎バスを利用される方については、複数回答となります。

4. オンブズパーソン相談状況

2024 年度は、毎月 2 名のオンブズパーソンによる相談を実施している。

利用者の方の相談内容については、将来の生活について、健康面について、人間関係などについての相談となっている。また、日常的な出来事について、話をされる方が多く、オンブズパーソンと利用者の方との関係性が強くなり、話をすることを楽しみにされている利用者の方が増えている。

5. 給食

昼食は、引き続き、委託業者(株式会社ニチダン)との契約により提供されている。食事形態や食事量の調整など、臨機応変に対応していただいている。

食費については、2025 年 3 月まで、1 食 300 円であったが、委託業者より原材料費や運搬費の高騰により、価格改定の依頼があった。協議の結果、2025 年 4 月より 1 食 318 円となっている。

6. 健康管理・衛生管理

利用者の健康管理については、日々の変化を見ながら、対応している。また、ご家族と情報を共有することもあり、生活場面と日中活動場面について、把握するよう努めた。

6/19 健康診断、10/25 インフルエンザ予防接種、3/14 内科検診を実施している。

7. 防災対策

防災については、海老名市の消防機関の指導により適正を期した。また、必要に応じて地震・火災に備えての訓練を実施した。

防災訓練実施状況

実施日	項 目	内 容	備 考
6 月 12 日	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	
9 月 30 日	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	法人全体訓練
3 月 3 日	避難訓練	風水害想定	
3 月 10 日	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	

8. 会計管理

会計管理については、星谷会経理規程、給与規程等に沿った適正な会計処理に努めた。

9. 研 修 等

実施日	研修内容	参加者
6 月 24 日～28 日	能登半島被災地支援	渡邊
7 月 16 日	虐待防止研修（海老名市期間相談支援センター主催）	白井
9 月 19 日	安全運転管理者講習会	白井
11 月 19 日	支援スタッフ部会・虐待防止・身体拘束廃止研修	渡邊、白井
12 月 16 日	あおぞら意見交換会	山口
12 月 21 日	第 39 回神奈川県障害福祉職員実践報告会	白井

10. その他

・今年度、SELP ビナ開所 20 周年を迎え、11 月 23 日（土）にレンブラントホテル海老名にて、20 周年記念パーティーを開催している。

・家族会について、ご家族の高齢化に伴い、役員を担う方が不足していることから、家族会存続について、家族会でアンケートを実施し、今年度末で家族会は解散となっている。家族会解散に伴い、10 月 17 日に事業所主催で家族懇談会を開催している。

11. 今後の課題

・次年度、利用者減による収入減が予想されるため、新規利用者確保のため、各関係機関との情報交換等、連携強化が必要となっている。

・活動について、今年度、事業所が 20 周年を迎え、利用者の高齢化や重度化により、受注作業への参加が難しくなっている方が出てきている。そのため、活動内容の検討が必要な時期に来ている。

2024 年度 海老名市障害者第一デイサービスセンター事業報告 (指定管理による運営 通称：レインボードリーム)

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 利用者の自己選択、決定を支援し主体的な生活が送れるよう支援する。

・日帰り外出の行き先を決める際には、利用者の選択の一助となるように行先のプレゼンテーションをおこなった。どのようなことができるのか、何が食べられるのかなど楽しみをお伝えし、利用者が選択、決定する際の助けになるようにした。

・日々の生活場面では、活動選択やお弁当注文時など、利用者にわかりやすいように写真カードやメニュー表を使用し自己選択、決定を支援した。

・「意思決定支援にかかる手がかり・ヒヤリングシート」の作成を始め、利用者の意思決定支援の手がかりとした。

(2) 大規模災害への対応

・事業継続計画（BCP）に基づいた訓練を年４回実施した。

・法人でおこなった防災に関する研修に参加し、事業所のある地域の災害想定に対する理解を深めた。

(3) 外出等の行事の再開

・新型コロナウイルスの影響で見合わせていた日帰り外出を再開させている。久し振りの外出となるため、参加する人数を少なくし設定し、より個々の意見を取り入れた外出になるようにした。また、外出の活動が初めての職員も多かったため、県内の近場を行先として設定し、経験を積めるようにした。

・11月には焼き芋大会、12月には忘年会でおかずづくりの調理をおこない、調理を含めた活動の再開を少しずつ進めた。

(4) 自主製品作業・活動の見直し

・食品加工ではサポート職員を配置し、ギフト作成時や大量注文の際にはラッピングや利用者支援に当たり、製造に利用者が多く携われるようにした。

・11月におこなったバザーで賞味期限前のジャムからカビが発生する事象があり、自主回収をおこなった。機器の導入による効率化や製造工程の見直しをおこない、安心安全な製品作りの検討をした。

2. 利用状況（2025 年 3 月末）

4 月は生活介護 35 名、就労継続支援 B 型 9 名でスタートした。8 月上旬に他県グループホーム入居に伴いに、生活介護利用者 1 名が契約終了。10 月に生活介護利用者 1 名の利用契約をおこない 2024 年度末の利用契約者数は生活介護 35 名、就労継続支援 B 型 9 名となり 44 名であった。

(1) 月別利用者状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	35	35	35	34	34	34	35	35	35	35	35	
	のべ人数	622	604	464	594	413	546	578	543	570	537	505	6516
就労継続支援 B 型	在籍者数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
	のべ人数	168	182	147	165	113	162	189	176	172	167	159	1965

2024年度	4				5				6				7			
	生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型	
	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済
定 員	30	30	10	10	30	30	10	10	30	30	10	10	30	30	10	10
契約者数	35	35	9	9	35	35	9	9	35	35	9	9	35	35	9	9
開所日数	21	22	21	22	21	22	21	22	20	21	20	21	22	22	22	22
利用者数	596	622	162	168	591	604	175	182	446	464	140	147	594	594	165	165
利用率契約者	81%	81%	86%	85%	80%	78%	93%	92%	64%	63%	78%	78%	77%	77%	83%	83%
利用率定員	94.6%	94.2%	77.1%	76.4%	93.8%	91.5%	83.3%	82.7%	74.3%	73.7%	70.0%	70.0%	90.0%	90.0%	75.0%	75.0%
延べ利用者数	790				786				611				759			
備 考	4月20日（土）開所日				5月18日（土）開所日				5/15（土）開所日				土曜余暇無し			

2024年度	8				9				10				11			
	生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型	
	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済
定 員	30	30	10	10	30	30	10	10	30	30	10	10	30	30	10	10
契約者数	34	34	9	9	34	34	9	9	34	34	9	9	35	35	9	9
開所日数	16	16	16	16	19	20	19	20	22	22	22	22	20	21	20	21
利用者数	413	413	113	113	524	546	156	162	578	578	189	189	522	543	169	176
利用率契約者	76%	76%	78%	78%	81%	80%	91%	90%	77%	77%	95%	95%	75%	74%	94%	93%
利用率定員	86.0%	86.0%	70.6%	70.6%	91.9%	91.0%	82.1%	81.0%	87.6%	87.6%	85.9%	85.9%	87.0%	86.2%	84.5%	83.8%
延べ利用者数	526				708				767				719			
備 考	土曜余暇無し 8/16、30開所 8/30一部出勤				9/21(土) 開所				土曜余暇無し				11/16(土) 開所日			

2024年度	12				1				2				3			
	生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型		生活介護		就労 B 型	
	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済
定 員	30	30	10	10	30	30	10	10	30	30	10	10	30	30	10	10
契約者数	35	35	9	9	35	35	9	9	35	35	9	9	35	35	9	9
開所日数	20	21	20	21	20	20	20	20	18	19	18	19	20	20	20	20
利用者数	550	570	166	172	520	537	162	167	487	505	154	159	540	540	165	165
利用率契約者	79%	78%	92%	91%	74%	77%	90%	93%	77%	76%	95%	93%	77%	77%	92%	92%
利用率定員	91.7%	90.5%	83.0%	81.9%	86.7%	89.5%	81.0%	83.5%	90.2%	88.6%	85.6%	83.7%	90.0%	90.0%	82.5%	82.5%
延べ利用者数	742				704				664				705			
備 考	12/21(土) 開所日				1/18（土）開所日				2/15（土）開所日				土曜余暇無し			

(2) 利用者状況

年齢分布（2025 年 3 月末）

	～19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70～	合計
男性	0	8	5	5	2	2	0	22
女性	0	6	4	4	6	2	0	22

平均年齢

男性平均	37.7
女性平均	41.7

障害支援区分（2025 年 3 月末）

区分	なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
人数	1	0	0	6	12	14	11

区分なし：1 生活介護平均支援区分：4.9 就労継続支援B型平均支援区分：3.3

障害等級別状況（2025 年 3 月末）

区分	A 1	A 2	B 1	B 2
人数	15	15	11	3

送迎サービス実績

延利用件数	13,136 人
-------	----------

3. 活動内容

様々なメニューを提供し利用者が自分にあった作業・活動を選び、決定できるよう努めた。作業、工賃確保の為、イベントへ参加し自主製品を販売した。クッキー、ジャムの個別販売など継続的に行い、売り上げの確保を図った。また、作業単価の高いネクスコ中日本の除草作業や国分寺跡の除草作を受注し工賃確保に努めた。

行事では一泊旅行の実施を見合わせた。事業所内で季節のイベントの実施、また土曜の休日開所ではカラオケやアニメ鑑賞などのレクリエーションや実施した。日々の活動の中では利用者のリクエストに応じ、楽しみとなるプログラムを提供した。

(1) 受託作業

ダンボール貼り合わせ・組み立て、チラシ折り、エコキャップ、水道メーターの解体、タオルの選別、タオルの配送、市内国分寺跡除草、綾瀬浄水場除草、東名高速道路（ネクスコ中日本）の高架下除草など。

(2) 自主製品・活動

食品加工、七宝画製作、クラフト、レクの日、ダンスの日、運動プログラム、カラオケの日。

(3) イベント

季節の行事、職員販売によるバザーの実施。日帰り外出を再開した。

(4) 地域との連携等

施設内での自主製品やクッキー・ジャムの販売活動、食品加工品の市や社会福祉協議会、保育園、地域団体等からの受注、市内コミュニティセンターからのエコキャップの搬入、実習者、見学者の受入れなど地域との関わりを図った。地域との交流ではデイサービスセンター合同で開催している「えびなこの街で暮らそう」を開催した。利用者は自由参加とした。地域でのイベントやボランティアフェスタ、仲間づくり交流会、メーデーバザーなどに参加した。

4. 作業会計

昨年度に続き工賃の高い国分寺跡除草作業、ネクスコ中日本の高速道路の除草作業を受注し工賃確保につなげた。また、食品加工では市、海老名市共同受注窓口からの催事用ギフトの注文やロータリークラブ、お歳暮、お中元ギフト等の注文販売や事業所での販売も売り上げ確保につながった。受注作業ではタオルの配達が安定して収入確保につながっている。

収入 （単位 円）

S K パック	17,120 円	エコキャップ	1,200 円
A S U	50,500 円	手芸	8,300 円
ファブリッククリーナーズ	29,205 円	除草作業（中日本高速道路）	429,119 円
たすけ愛ゆずり愛	211,200 円	正月フラワーアレンジメ	47,500 円

		ント	
除草作業（綾瀬浄水場）	54,260 円	バザー売上	107,363 円
除草作業（国分寺跡）	697,630 円	七宝画販売	5,225 円
水道メーター	15,000 円	鈴木農園資料作成	5,530 円
ことこと屋。	855,758 円		
松ぼっくりツリー	12,185 円	前年度繰越金	18 円
合計		2,547,113 円	

支出 （単位 円）

材料費	395,991 円	利用者賞与	1,344,451 円
利用者給与	805,000 円	金種指定手数料	1,650 円
合計		2,547,092 円	

収入 （単位 円）	支出 次年度繰越		
2,547,113 円	2,547,09 円	21 円	

<備考>

□全体（生活介護・就労継続支援B型）：3,980/月 □就労継続支援B型：5,285/月

5. 健康管理

看護師は月2回出勤。月1回の体重測定、日々の健康観察、年4回の嘱託医検診の他、歯科検診、利用契約者を対象とした健康診断をそれぞれ年1回実施。嘱託医、看護師より健康状態や病気の予防等について助言を受けながら、必要に応じ適宜ご家庭や関係機関と連絡をとり健康管理に努めた。日中活動時においては検温、服薬の支援、状況に応じ通院付き添いサービスを提供した。嘱託医による希望者を対象としたインフルエンザの予防接種を行った。

6月末より事業所で新型コロナウイルスのクラスターが発生したが、事業所は閉鎖をせず、継続して営業を行った。

6. 防災

「地震」「火災」「風水害」を想定した避難訓練を年4回実施。災害時の役割分担、動きなどの確認、利用者の状態に応じた避難方法を検討し緊急時に適切に対応できるよう努めた。消防設備については年2回の法定点検を実施し消防署に報告。大規模災害に備え事業所BCP計画を策定した。

7. 職員研修

星谷会主催の研修、リモートで行われた研修に参加した。県央東地区施設協会の研修に参加した。また、リモートでの強度行動障害支援者養成研修に参加し、基礎研修修了者を7名にしている。

支援上の課題については複数ケース担当者制を継続しケース検討、毎日の職員ミーティング等で課題の共有化を図り適宜対応できるよう努めた。

8. ご家族との連携

日々の連絡ノートや電話、送迎時等で利用者の様子をお伝えし、またご家庭などの様子を伺い連携を図った。23年度末での家族会解散に伴い、事業所主催の懇談会を年に2回開催した。事業所からの報告や、ご家族との意見交換の場とした。

9. ボランティアの受け入れ状況

忘年会では手回しオルガン奏者のボランティアに来ていただき、演奏会を開催した。

10. 今後の課題

- (1) 利用者の自己選択、決定を支援し主体的な生活が送れるように支援する。
- (2) 大規模災害への対応。
- (3) 行事の充実。
- (4) 食品加工事業の見直し。

2024 年度 海老名市障害者第二デイサービスセンター事業報告

(指定管理による運営 通称：かっぱ堂)

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 個別支援の充実

(障がい特性に応じた専門性の高い支援/ケース会議の定期開催/余暇活動の実施/定期面接の実施/長期欠席者の方への訪問支援・利用意向の確認等)

- ・ 毎日の終礼、職員会議にて利用者の状況を確認し共有した。必要に応じ相談支援事業所等関係機関を交えたケース会議を実施し支援した。
- ・ 日中活動では絵画の制作やフラダンス、講師によるドラムサークルなどいろいろな活動を提供した。また、利用者自治会で利用者の意見を伺いながら夏季、冬季に季節のイベントを催した。利用者が室内の飾りつけや制作、歌合戦に併せた衣装づくり、発表など等行い行事に参画した。小グループによる日帰り外出、第二土曜日に余暇支援を実施した。
- ・ 利用者個別面談を行い利用者の希望やニーズを把握し個別支援計画を作成し支援した。
- ・ 長欠者への家庭訪問を実施。生活介護利用者 1 名については 2019 年 5 月より利用がなく本人、家族への意向を確認し、本人に利用の意思がないという事、他の障害福祉サービスを利用できているという状況から利用契約終了となった。1 名については精神疾患の状態が悪くすぐに利用ができる状態ではなかった。年度の後半には状態も回復傾向が見られた。家庭での生活維持を第一とし家庭訪問を継続した。1 名については次年度より短時間の利用ができるよう取り組みを始めた。

(2) 地域との関わり・繋がりを深める。

(自治会活動や地域行事への参加/農作物の積極的な販売/地域に向けた収穫体験の実施/「食と職、海老名笑顔化計画」の実施・継続)

- ・ 地域自治会に継続し入会しているが地域行事への参加はなかった。地域の清掃を継続実施した。
- ・ 事業所前にて、収穫した作物の販売また加工品として焼き芋の販売を行った。かっぱ堂インスタグラムにて宣伝をした。
- ・ 地域に向けた収穫体験は実施に至らなかった
- ・ 「食と職、海老名笑顔化計画」については 2024 年度 3 月末に提携していた会社より事情により継続ができない旨の申し入れがあり終了した。

(3) サービス向上の取り組み。

(精神障害、人権、制度等の研鑽の場を持つ/農作業・カレンダー販売/工賃向上の為に作業種の拡充//休日開所の実施/作業種拡大の為にボランティアの導入/作品展への応募)

- ・ 神奈川県主催の障害福祉サービス従事者向け「精神障害の特性と支援方法学ぶ研修」を常勤職員が受講し事業所にフィードバックし精神障害者支援の理解を図った。法人人権擁護委員会の研修の他、職員会議で利用者支援時の人権に係る気付きや課題について話し合いを行い人権意識の向上に努めた。障害福祉サービス制度については会議等で管理者より説明をした。

- ・野菜の種類やサツマイモの栽培量を増やした。カレンダーの制作販売を継続した。
- ・収穫したサツマイモで「焼きいも」をつくり販売した。新規の受託作業では海老名市共同受注窓口の紹介でネクスコ中日本より海老名市門沢地区の東名高速道路高架下管理用地の除草作業を受託した。工賃は前年比およそ 26 パーセント向上した。
- ・11 月と 3 月に休日開所を予定したが 3 月は職員配置ができず実施出来なかった。
- ・ボランティアを活用しての作業の拡大に取り組んだが農作業のボランティア 2 名が体調不良、仕事の都合で年度当初に終了した。その後募集をしたがボランティアは集まらなかった。農作業については栽培する作物を調整し活動を継続した。
- ・日中活動で制作した絵画を「全国手をつなぐ育成会連合会」の機関紙「手をつなぐ」の表紙等の公募や企業の作品展へ応募をした。受賞には至らなかった。

(4) 精神障がいの方への利用促進への取り組み。

(活動内容の模索・検討・実施/精神障害の特性に応じた支援の為に研修/精神障がい者に向けた開所日の実施)

- ・神奈川県主催の障害福祉サービス従事者向け精神障害の特性と支援方法学ぶ研修を常勤職員が受講し事業所にフィードバックし精神障害者支援の理解を図った。
- ・海老名市在住の精神障害福祉手帳所持者の方向けのカラオケの会を 2 回実施し事業所の紹介をした。

2. 利用状況 (2024 年度末現在)

2024 年 4 月海老名市支援学校高等部の卒業生 1 名が生活介護で利用契約。2025 年 1 月就労継続支援 B 型 1 名契約。3 月末時点での利用契約者は生活介護 27 名、就労継続支援 B 型 13 名であった。

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	27	27	27	27	27	27	26	26	26	26	26	26	
	のべ人数	411	412	397	425	291	382	423	403	317	350	346	369	4526
就労継続支援 B 型	在籍者数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
	のべ人数	158	162	152	182	117	149	175	188	113	146	143	160	1845

(2) 利用者状況

年齢分布 (2024 年度末)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男性	1	6	5	5	6	1	0	25
女性	0	1	1	2	7	3	2	15

平均年齢

男性平均	39. 8
女性平均	55. 8

障害支援区分 (2024 年 3 月末)

区分	なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
人数	2	0	3	5	10	13	7

障害等級別状況（2024 年 3 月末）

区分	A 1	A 2	B 1	B 2	身障 1 級	精神 1 級	精神 2 級
人数	5	13	13	2	2	1	6

(3) 送迎サービス実績

延利用件数	7687	前年度比	－230
-------	------	------	------

3. 支援内容

利用者の自己決定・自己選択を尊重し、受注作業（タオルたたみ、チラシ折り等）・農園芸・散歩・室内運動プログラム（ダンス・ストレッチ・フラダンス）・水彩画・手芸・カラオケ・ゲーム・買い物等の活動を提供した。講師によるドラムサークルを2か月に1回継続した。綾瀬浄水場、国分寺跡の除草作業や海老名市共同受注窓口の紹介によるネクスコ中日本の東名高速道路高架下の管理用地の除草作業を受託し工賃確保に努めた。

土曜余暇、日帰り外出を実施、かっぱ祭り、新年会、などの行事、「えびなこの街で暮らそう」のバザーも実施した。12月に新型コロナウイルス感染症に利用者・職員が感染しクラスターとなったが通常営業しサービス提供は継続した。

4. 作業会計

国分寺除草作業、東名高速道路除草作業、バザー売り上げを作業工賃に反映することができた。

収入（単位 円）

ファブリッククリナーズ	62645 円	東名高速除草作業	549828 円
A S U	31200 円	国分寺除草作業	697630 円
野菜販売	143320 円	カレンダー	64100 円
焼き芋	8400 円	綾瀬浄水場除草作業	54260 円
柿販売	3300 円	たまご祭り	3400 円
ドリンク販売	326328 円		
メーデーバザー	151400 円		
えびなこの街でくらそう	72174 円	利息	160 円
手芸	12000 円	前年度繰越金	23 円
合計	2180168 円		
材料費	273706 円	利用者賞与	1410243 円
利用者給与	489600 円	銀行手数料	6600 円
合計	2180149 円		

収入（単位 円）	支出	次年度繰越
2180168 円	2180149 円	19 円

<備考> 1日利用者数平均で算出 就労B型：7.6人 生活介護18.5人 全体：26.1人

就労継続支援B型事業平均工賃：5851円 生活介護・就労継続支援B型：6960円

5. 健康管理・衛生管理

年4回の嘱託医検診、年1回の歯科検診、健康診断、嘱託医によるインフルエンザ予防接

種を事業所内で実施した。また必要に応じて通院付き添いを実施。毎日の検温の他、月2回の看護師巡回の際に血圧と体重の測定を行なった。その際、利用者の健康状態を伝え、アドバイスを受けた。感染症対策として手洗い・うがい、マスク着用・消毒等を励行し、感染対策・予防継続した。12月に新型コロナウイルス感染症が拡大し利用者12名、職員2名が罹患しクラスターとなった。

6. 防 災

避難訓練（火災・風水害）、水消火器を使用した消火訓練、通報訓練等、事業所で行った。災害時、備蓄品の補充と食品・飲水の入替え（利用者・職員含め3日分）を行った。

7. 職員研修

星谷会主催の研修の他、嘔吐物処理など感染症の研修を実施した。外部研修では神奈川県主催の障害福祉サービス従事者向け精神障害の特性と支援方法学ぶ研修に参加し精神障害者の支援について理解を深めた。

毎月の職員会議、毎日の職員ミーティングで利用者の状況を確認し支援課題などについて情報共有を図り適宜対応できるよう努めた。

8. ご家族との連携

日々、連絡ノートや電話、送迎時等で利用者の様子をお伝えし、ご家庭などの様子を伺い連携を図った。家族会にて事業所の様子やお伝えしご要望等伺った。

9. ボランティアの受け入れ状況

年度当初、畑作業のボランティアを2名受け入れていたが、仕事の都合や体調不良を理由に終了。以後募集をしたがボランティアは見つからなかった。

10. 課題

- (1) 個別支援の充実
- (2) 安心・安全・楽しみとなる過ごしの方の提供
- (3) ものづくりと地域とのつながり
- (4) 意思決定支援
- (5) サービス向上・人材の育成

2024年度 海老名市障害者支援センターあきば事業報告

（指定管理による委託運営）

1. 重点目標の取り組み状況

（1）利用者主体の支援の充実

2023年度に引き続き、個別支援計画作成時や日中活動の中で、利用者の要望を聞き取りながら、意思を反映し支援を行った。また、意思の表出が難しい利用者については日々の様子を観察し意思を汲み取るよう努めた。支援員向けには神奈川県の「意思決定支援に係る手がかりヒヤリングシート」の活用をしながら意識が向上するよう努めた。また、8月より外部講師を活用したイベントを企画し様々な体験をしていただくことで選択の幅が広がるよう支援した。

(2) 外部専門職との連携

利用者各々の障害特性を理解して支援する為、自閉症支援専門機関の職員によるスーパーバイズを年4回(6月・12月・2月)実施した。また、10月に非常勤職員を中心に「自閉症～障害特性の理解」についての研修会を実施している。

スギナースィングケアと訪問看護委託契約を結び週1回理学療法士の派遣を受け機能維持活動や体勢等についてのアドバイスを受けている。

(3) 虐待防止と権利擁護の取り組み

あおぞらプラン、星谷会行動指針を定期的に読み合わせする共に人権研修の実施、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を開催し定期的な検証をして虐待防止、権利擁護に努めた。

(4) 働きやすい環境作り

全職員に対して面談の機会をもっているが、面談希望があがってから実施することが多く定期的には実施できなかった。2025年は目標設定およびその確認までは実施できなかった。2025年度は役割分担及び面談日程を年間予定に入れることで計画的な面談が実施できるように計画している。ノー残業デイについては会議日に設定した。また、ノー残業が明確になる札を用意し週1の取得を目指したが、人員不足もあり思うように機能しなかった。

(5) 工賃アップへの取り組み

受注作業の受注については海老名市より国分寺尼寺の除草作業を3デイで受託している。また、近隣のカフェより包装用容器等の加工依頼があり受託に向け調整中。自主製品の販路については地域のイベントに参加していくことで販路拡大を図っている。自主製品の品質向上のため刺繍ミシンの導入をしている。工賃原資として718,003円の増収であった。

2. 利用状況

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	52	51	51	51	51	51	50	50	50	50	50	50	
	のべ人数	850	831	775	861	600	760	883	824	779	733	720	811	9,427
就労継続支援B型	在籍者数	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	
	のべ人数	327	323	301	328	229	295	331	285	295	260	263	295	3532

年間平均利用率：生活介護 65% 就B70% (定員)

(2) 短期入所(宿泊) 利用状況

契約利用者数	年間のべ宿泊日数	稼働率
100名【新規契約者＋5名】【GH入居等－2名】	1142日	73.8%

(3) 日中一時利用状況

契約利用者数	年間利用のべ日数		利用時間数
47 人	466 日		824 時間

(4) 利用者状況（2024 年度末現在）生活介護 50 名、就労継続支援 B 型 18 名

年齢分布

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	1	13	12	13	2	0	41
女性	2	9	7	2	5	2	27

平均年齢

男性平均	36.9
女性平均	39.3

障害支援区分

区分	区分なし	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均
就 B	2	1	4	10	0	1	3.3
生活介護			2	16	18	14	4.88

障害等級別状況

療育手帳

等級	A 1	A 2	B 1	B 2
人数	29	17	8	4

身体障害者手帳

等級	1	2	3	4	5	6
人数	14	5	0	0	0	0

精神保健福祉手帳

等級	1	2	3
人数	0	1	0

送迎サービス実績

延利用件数	17,969 人	前年度+1,501 人
-------	----------	-------------

3. 活動内容

行事については 8 月より毎月外部講師を招きながら、シャボン玉ショーや各種演奏、ダンス等の鑑賞を行なった。また、バザーへの参加や日帰り外出（17 回）を実施した

受注活動では、ダンボールの組仕切り、エコキャップの色分け、タオルのたたみ、市内国分寺跡除草、綾瀬浄水場除草、DVD・CD の仕分け作業、アラミド繊維ほぐしの作業を行なった。

それ以外の活動では手芸、陶芸、農園芸、散歩、ウォーキング、カラオケ、アート、スノーブレン、入浴サービス、納品・引き取り等を提供した。また、事業所内行事としてクリスマスイベント、ハロウィンイベント、二十歳を祝う会、マルシェを実施した。

4. 作業会計（2024 年度分）

収入

紙工小師	¥147,268	農園芸	¥20,807
ファブリック	¥26,559	手芸	¥97,190
エコキャップ	¥8,835	陶芸	¥3,400
アラムド	¥803	T シャツ	¥35,056
ジースカイ	¥693	パソコン受注	¥167,595
アクアレイズ	¥121,196	喫茶	¥1,900,750
都市環境サービス	¥162,217	バザー売り上げ	¥212,536
空き缶回収	¥78,925		
浄水場除草作業	¥54,260		
国分寺跡除草作業	¥697,630		
図書取次	¥396,000		
		前年度繰越金	¥30
合計		¥4,131,750	

支出

材料費	¥1,141,592	利用者賞与	¥1,403,117
利用者給与	¥1,580,407	銀行手数料	¥6,600
合計		¥4,131,716	
収入	支出	次年度繰越	
¥4,131,750	¥4,131,716	¥34	

利用者平均工賃支給額

- 2,565 円／月【生活介護】（前年度＋353 円）
- 5,509 円／月【就労継続支援 B 型】（前年度＋1,173 円）
- 3,656 円／月（生活介護＋就労継続支援 B 型）（前年度＋595 円）

5. 給 食

給食は業務委託により提供している、利用者の食事形態等については見直しが必要な際には業者に依頼し対応した。毎月 1 回のセレクトメニューを実施した。
給食委員会を 6 月に開催し、利用者や職員の要望を伝え改善を図った。

6. 健康管理

看護師により 2 か月に 1 回体重測定及び血圧測定を実施。年 4 回の嘱託医検診の他、歯科検診、健康診断、インフルエンザ予防接種をそれぞれ年 1 回実施した。2 月にインフルエンザ A 型に 7 名が感染することはあったが、それ以外の集団感染は起きていない

7. 防 災

「火災」を想定した避難訓練を 2 回行い、水害を想定した訓練を 1 回実施している。また、11 月 30 日に起震車や水消火器を使い利用者、家族と防災体験をするとともに非常食を実際に食べる体験型の訓練を実施した。

8. 地域との連携

カフェ“はみんぐ”での飲食販売、市内図書館の本等の貸し出し・返却の取次業務、海老名市農政課主催の野菜販売を継続して実施する中、地域の方々との交流を図った。

土曜営業は毎月1回実施した。

「えびな・この街でくらそう」を10月14日に開催した。また地域のイベントにも積極的に参加した。

2024年度 グループホーム事業報告

(みずき しおん とんぼ かぶとむし はなきりん てんとうむし ほたる)

1. 重点目標の取り組み状況

(1) 継続的な支援の確立

グループホーム担当常勤支援スタッフを中心に、支援計画に基づき、個々のニーズに合わせた暮らしのサポートを実践した。

(2) 安定的なグループホーム運営

夜勤世話人パートの積極的な採用を実施し、福祉理解や継続して支援に携わる人材の定着に努めた。福祉未経験の採用希望者が多いことから、常勤スタッフが支援理解や協力的なホーム運営を心掛けた。土曜日・日曜日閉所していたとんぼについて、人員配置を整え、全日の開所としている。

(3) グループホームの協力体制の強化

常勤会議の定期的を実施し、各ホームの支援報告と必要に応じ話し合いをおこなった。また、支援に必要な関係者会議を実施した。常勤スタッフは、会議で検討された内容や、支援に必要な考え方など、各グループホーム会議で、世話人に丁寧な説明を実施している。人員配置の不足に関して、常勤を中心に献身的なサポートに努めた。

2. 運営の状況

(4) 人権意識

法人職員行動指針・あおぞらプランの読み合せを常勤会議でおこない、各グループホーム会議で担当常勤スタッフが世話人に丁寧な説明をおこなった。また、人権に関わる研修動画の視聴、人権に関わる資料の読み合せをおこなうなど、ホーム会議で研修を実施した。

(5) 管理・運営について

①個別支援計画及びモニタリング等、重要書類の作成について、グループホーム年間計画に基づき、年間計画で実施を示し、検討する時間を常勤会議で設けた。

②課題として利用者の加齢に伴う課題など、関係機関に呼びかけ、積極的に関係者会議を実施した。また、ドロップボックスで情報共有する事で、各ホームの情報共有に努め、会議参加を呼び掛けるなど、職員同士が協力して行く様に努めた。

③世話人の求人公募への希望が極めて少ない事から、新聞折り込みの求人公募での応募や、知人を通じた紹介などをおこなったが、人材不足が深刻で、採用には大きな課題を残した。法人行動指針の読み合せ、あおぞらプランの説明をもって、未経験者へのアプローチを丁寧におこない、福祉人材の定着に丁寧に努めた。

④入居者の定員の充足

入所調整会議、利用者の公募を実施し、入所調整会議を実施し、とんぼ 1 名 はたる 1 名 はなきりん 1 名の入居者を決定した。また、はなきりん利用者からの要望から、しおんへの転居をおこなった。

⑤グループホーム年間計画を作成し、円滑な事業運営に努めた

(6) 感染症対策

グループホーム年間計画に沿って、感染症マニュアル確認、嘔吐物処理訓練の実施をおこなった。手洗い、うがいを推奨し、感染予防に努めた。

(7) 防災

①グループホーム年間計画に沿って研修、義務化されている訓練の実施をおこなった。

②自然災害 BCP の検討会議を 5 月に実施し、見直しを 3 月におこなった。

③東宝防災に依頼し、防災機器点検を実施した。

④防災備品として、海老名市補助金地域防災拠点事業を活用し備品の補填をおこなった。

(8) 余暇の充実

①ニーズの挙がった利用者に、ガイドヘルパーサービス活用をサポートをおこなった。

②クリスマスイベント実施、各グループホームで、ニーズに合わせた趣向をこらしたイベントを実施した。

(9) 健康管理

①法人健康診断実施、定期通院の動向対応をおこなった。通院同行に必要な、人員不足も伴い、勤務表上の配置が難しくなっている。訪問診療の検討、薬局のサービスによる処方箋をホームに届けるといった内容について検討をおこなった。

②通院対応により、健康状態の把握に常勤スタッフが務めた。本人及び家族への報告をおこなった。

③法人看護師による、訪問巡回を実施した。2025 年度に向け、訪問看護ステーションとの話

し合いを重ね、次年度の訪問看護の契約をおこなった。

(10) 職員研修

法人研修委員会が計画する外部研修への参加を勧めた。世話人はパートの W ワークなどにより、研修参加が難しいことから、ホーム会議で動画による研修を実施し、義務化された研修の受講に努めた。

(11) 地域との関わり

地域との関わりについて、海老名市地域連携推進会に参加し概要の説明を受けている。内容を確認し次年度より、地域連携推進会議による地域との関わりを実施する。

3. 利用者の状況

入居利用者及び職員配置

住居の名称		定員	入居者	世 話 人 生活支援員	日中活動の場
みずき	みずき	4 人	4 人 (女)	5 人	デイ
	しおん	4 人・体験 1 人	4 人 (女)	8 人	民間会社、デイ
	とんぼ	5 人	5 人 (男)	7 人	デイ
	かぶとむし	9 人	9 人 (男)	7 人	就継 B、民間会社、ディ
はなきりん	はなきりん	8 人	7 人 (女)	5 人	民間会社、デイ
	てんとうむし	9 人	9 人 (男)	7 人	学園、デイ
	ほたる	7 人	7 人 (男)	6 人	民間会社、デイ

障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
みずき				1	1	2
しおん		1			2	1
とんぼ				2	2	1
かぶとむし			4	2	2	1
はなきりん			1	3	2	1
てんとうむし			1	4	2	2
ほたる		1	3	3		

利用実績（実利用日数）

居住の名称	年間利用日	満 床	年間利用率
みずき	1,260 日	1,460 日	86.3%
しおん	1,076 日	1,825 日	58.9%
とんぼ	1,091 日	1,825 日	59.7%
はなきりん	2,205 日	2,920 日	75.5%
てんとうむし	2,560 日	3,285 日	77.9%
かぶとむし	3,007 日	3,285 日	91.5%
ほたる	1,792 日	2,555 日	70.1%
合計	12,991 日	17,155 日	75.7%

2024年度 ホームいこい事業報告

昨年度、欠員となっているホームいこいとホームいずみについて、積極的に体験利用を行い、6月にホームいずみに1名、2025年4月1日にホームいこいに1名の利用者が入居することができ、定員を満たすことができた。

2025年度より必須となる「地域連携推進会議」について法人内グループホーム管理者で実施方法について検討を行った。

1. 重点課題に対する取り組みと評価

- ① 可能な限り、話し合いを基本としてご本人が希望する生活を支援します。
→定期的な面談や日常生活の中らご本人が希望する生活を汲み取り、余暇支援の充実を図った。(プール外出、遠出外出、季節に応じたイベントの実施)
- ② 個別性を尊重するとともに障害特性を理解する事に努めます。
→昨年に引き続き、ホーム毎の会議の中に「ミニ研修」を計画・実施し、利用者の障害特性を理解する取り組みを行った。虐待防止研修、身体拘束防止に関わる必須研修の実施も行った。
- ③ 事故のない、安心できる場所、そして快適な場所を提供します。
→事故が発生したらすぐにサービス管理責任者、管理者への連絡と指示を仰ぐ流れを再確認し、事故報告書の作成と会議での再発防止の検討を行った。また、ホームの修繕関係も不動産業者と連携を取り、快適な生活環境を提供した。

2. 支援内容

- ① 個別支援計画に沿って支援します。
→毎月のホーム会議にて利用者の生活状況を確認するモニタリングを実施し、計画に沿った支援を実施した。
- ② 健康に配慮し、本人のし好に沿った食事提供をします。
→毎日のバイタル測定・体重測定を実施、看護師による隔週の健康チェックを実施した。

3. 健康管理

- ① 年1回の健康診断を行います。
→法人内通所事業所において健康診断を受診した。
- ② 看護師による日常的な健康管理を行い、必要に応じて適切な対応をします。
→毎月隔週で健康チェックを実施した。
- ③ 感染症対策を徹底し、予防に努めます。
→感染症BCP研修を実施し、日頃からの備えに関して学び、日々の感染症対策(うがい・手洗いの励行)を行い予防に努めた。

4. 職員研修

- ① 法人の規程に沿って採用時の研修及び虐待防止の研修を行います。
→2025年2月28日法人主催「虐待防止・身体拘束に関わる研修会」に管理者が参加し、3月の各ホーム会議にて伝達研修を実施。(ひかり：3/12、いずみ：3/19、いこい：3/26)

② 年間の研修計画に沿って研修を行います。

→7月：ミニ研修「感染症・自然災害 BCP 研修」の実施 8月：感染症・嘔吐物処理訓練実施

→2025年2月14日法人全体研修「実践報告会」参加。

5. 会議及び委員会

① 管理者、サービス管理責任者及び世話人の会議を毎月1回行います。

→各ホームの毎月の会議を実施した。

② 住居毎のスタッフにより会議を毎月1回行います。

→上記の会議と併せて実施した。

③ 法人の会議、委員会に参加します。

→法人リスクマネジメント委員会へ管理者が参加をした。

6. 防災対策

① 法人の防災計画に沿って研修、訓練等を実施します。

→5/3 ホームいこい・ひかり避難訓練実施（水害想定）利用者9名・職員19名参加

→6/24 ホームいずみ避難訓練実施（火災想定）利用者3名・職員4名 計7名参加

→6/26 ホームいこい・ひかり避難訓練実施（火災想定）利用者9名・職員5名 計14名参加

→10/1 法人防災訓練へ参加（地震想定 of 避難訓練・報告訓練）

→2/3 ホームいずみ避難訓練実施（火災想定）利用者3名・職員3名 計6名参加

→2/26 ホームいこい・ひかり避難訓練実施（火災想定）利用者9名・職員4名 計14名参加

② 防災機器については定期点検を外部業者により実施します。

→3/10 御幸防災設備が定期点検実施した。

③ 防災備品及び非常食について準備し、適切な管理を行います。

→海老名市地域防災拠点事業の補助金を活用し、簡易トイレを3ホームに購入した。

7. 利用者の状況

入居利用者及び職員配置

住居の名称	定員	入居者	世 話 人 生活支援員	日中活動の場
いこい	5	5	9	生活介護
ひかり	5	4	8	生活介護・就労B型（外部 y）
いずみ	4	4	8	生活介護・就労B型

障害支援区分

住居の名称	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
いこい				2 名	2 名	
ひかり			1 名		3 名	1
いずみ					3 名	

利用実績（実利用日数）

住居の名称	年間利用日	年間利用率
いこい	1,305 日	89.3%
ひかり	1,650 日	90.4%
いずみ	1,071 日	73.3%

2024年度 生活支援センターステップ 事業報告

国分南の「小野澤マンション」が、老朽化と耐震問題があったため、2024年11月に東柏ケ谷の「アイリスコートさがみ野 103」に事業所を移転した。

大和市寄りの立地であるため、支援をスムーズに行うために公用車を2台増車し、駐車場のステーションを東柏ケ谷に2台、星谷学園駐車場に2台に設けることで、スムーズな支援提供が図ることができた。また、移転に伴ってレスパイトサービスの泊り業務を担うヘルパーも増え、前年度よりレスパイト利用数も微増した。海老名の端に位置する立地のため、次年度は支援内容の工夫が求められる。

1. 重点課題に対する取り組みと評価

- ① 利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるものとする。

→複数のヘルパーが関わっても同等内容の支援が行えるように指示書を作成し、関りのポイント等、利用者の立場に立ったサービス提供を行った。

- ② 地域との結び付きを重視し、市町村、他の障害福祉サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

→相談支援事業所からのモニタリング会議等に積極的に参加をして連携を行った。

→海老名市障がい福祉サービス合同事業所説明会に参加し、他事業所との連携を深めた。

2. 健康管理

- ① 感染症対策を徹底し、予防に努める。

→日々の感染症対策（うがい・手洗いの励行）を行い、予防に努めた。

3. 職員研修

- ① 法人の規程に沿って採用時の研修及び虐待防止の研修を行います。

→新規の登録ヘルパー採用時に法人理念とヘルパーとしての心得、虐待防止について研修を行った。

→2025年2月28日法人主催「虐待防止・身体拘束に関わる研修会」に管理者が参加し、3月の各ホーム会議にて伝達研修を実施。

4. 防災対策

- ① 法人の防災計画に沿って研修、訓練等を実施します。

→10/1 法人防災訓練へ参加（地震想定避難訓練・報告訓練）

- ② 防災備品及び非常食について準備し、適切な管理を行います。
→海老名市地域防災拠点事業の補助金を活用し、簡易トイレを購入した。

5. 会議及び委員会

- ① 管理者、事務員、コーディネーターの会議を毎月 1 回行います。
→毎月、午前に「事務管理会議」、午後に「地域生活支援会議」を実施した。
- ② ヘルパー会議を年 3 回実施します。
→6/28・10/25・2/28 にわかば会館にてヘルパー会議を実施した。
- ③ 法人の会議、委員会に参加します。
→管理者が、法人リスクマネジメント委員会に参加した。

6. 利用状況（実績）

【上期】

事業名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
移動支援	132 件	137 件	115 件	129 件	122 件	129 件
日中一時	103 件	96 件	97 件	111 件	107 件	109 件
レスパイト	3 件	2 件	2 件	0 件	4 件	3 件
ステップサポート	26 件	38 件	31 件	39 件	25 件	20 件

【下期】

事業名	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
移動支援	118 件	108 件	76 件	91 件	110 件	104 件
日中一時	90 件	81 件	87 件	72 件	87 件	90 件
レスパイト	1 件	3 件	1 件	1 件	3 件	3 件
ステップサポート	17 件	49 件	35 件	27 件	34 件	33 件